

✓ 愛知県、3年以内南海トラフ地震60%超確率か

日本は地震大国であり、特に南海トラフ地震は東海・東南海・南海の連動で広域被害を生む最大級の脅威です。愛知県は工業中心地として経済を支えつつ、沿岸部の密集地帯が津波や揺れの直撃を受けやすい位置にあります。政府の最新評価では、今後30年以内の発生確率が60～90%程度以上とされ、2026年2月12日から2029年2月11日までの3年以内に大地震（震度6弱以上またはマグニチュード7以上）と大津波（高さ3m以上）が発生する可能性が年平均2～3%と推定されます。このレポートは、地震調査研究推進本部や気象庁のデータ、専門家解析を基に、愛知県特化の確率・タイミング予測を定量的にまとめます。

なぜ今、重要か。過去の宝永地震（1707年）や昭和東南海地震（1944年）で愛知県は家屋倒壊や津波被害を繰り返し、潜在死者1万9千人、建物全壊40万棟超の惨事も想定されます。レポートの目的は、これらの脅威を科学的根拠と歴史的経緯から分析し、防災意識を高めることです。範囲は南海トラフを含む全地震を対象とし、政府発表を優先。構成は、政府評価の概要から科学的根拠、歴史、地質経緯、影響分析までを順に解説し、愛知県の防災策提言で締めくくります。この予測は不確実性を伴いますが、日常の備えが命を守る鍵となります。

2. 政府・専門家による発生確率とタイミング評価

地震調査研究推進本部（地震本部）は、令和7年9月26日に南海トラフの地震活動の長期評価を一部改訂した。令和7年1月1日時点の今後30年以内の発生確率を、従来の「80%程度」から以下の2つのモデルで再評価した。

- すべり量依存BPTモデル**（室津港隆起量と発生間隔を使用）：60～90%程度以上（70%信用区間）。地震規模のばらつきを考慮したモデルで、防災対策上高い値を強調。
- BPTモデル**（発生間隔のみ使用）：20～50%（70%信用区間）。過去6回の地震履歴に基づく。

いずれも海溝型地震の最高ランク「IIIランク（高い、26%以上）」に位置づけられ、切迫性は変わらない。地震後経過率（昭和南海地震から約80年経過）は高い状態を維持。

2026年2月12日から2029年2月11日までの3年以内短期確率の定量的推定は公表されていない。30年確率の時間経過モデル（ポアソン過程）から年平均約2～3%と推定されるが、特段の変化なし。

モデル	30年確率（令和7年1月1日）	ランク	根拠
すべり量依存BPT	60～90%程度以上	III（高い）	隆起量データ考慮、不確実性定量化
BPT	20～50%	III（高い）	発生間隔のみ、ベイズ推定

南海トラフ地震臨時情報運用の状況：令和6年8月8日日向灘M7.1地震で初運用（調査中→巨大地震注意→調査終了）。以降、深部低周波微動等で定例発表が継続中だが、巨大地震警戒・注意なし。

気象庁はN-net（南海トラフ海底観測網）沖合システムを令和6年11月21日から津波情報に活用。

3. 科学的根拠：地震活動性・プレート境界解析

プレート境界のひずみ蓄積、長期的・短期的ゆっくりすべり、深部低周波微動の最新観測（2026年1月時点）と定量解析を、政府資料中心に解説する。気象庁の南海トラフ沿い評価検討会（第102回、2026年2月6日）では、想定震源域の固着状況に変化なしと評価。

プレート境界ひずみ蓄積

GNSS観測等により、御前崎、潮岬、室戸岬周辺で長期的な沈降傾向が継続し、フィリピン海プレートの沈み込みに伴うものである。この傾向に特段の変化はない。愛知県東部から静岡県西部にかけては、2022年初頭から従来の傾向とは異なる地殻変動を観測。渥美半島周辺から浜名湖周辺のプレート境界深部で長期的ゆっくりすべりに起因し、すべり中心が渥美半島から浜名湖へ移動している。

短期的ゆっくりすべり

プレート境界深部で発生する短期的ゆっくりすべりは、深部低周波地震（微動）と同期してひずみ計・傾斜計でわずかな地殻変動を観測。2026年1月時点の主な活動：

- ・四国南部：12月31日から1月8日
- ・四国東部：1月21日から1月29日
- ・紀伊半島中部・西部：1月26日、31日
- ・東海：1月11日から17日

これらは従来から繰り返し観測される現象で、プレート境界固着状況に特段の変化を示さない。

長期的ゆっくりすべり

四国中部：2019年春から異なった地殻変動を観測、2024年秋頃から収束。紀伊半島南部：2020年初頭から異なった地殻変動、2024年秋頃から停滞も2025年初頭から再開。これらも従来の繰り返し現象。

定量解析の概要

第102回評価検討会では、上記現象を短期的・長期的ゆっくりすべりと評価。想定震源域の固着状況に変化なし、平常時比で大規模地震発生可能性が高まった特段の変化なし。地震本部長期評価（2026年1月1日基準）でも、確率値更新は主に経年増加モデルによる微小変化。

現象	期間（2026年1月）	場所	対応すべりタイプ
深部低周波微動+地殻変動	12/31-1/8	四国南部	短期的
同	1/21-1/29	四国東部	短期的
同	1/26,31	紀伊半島中・西部	短期的
同	1/11-17	東海	短期的

4. 歴史的・地質学的経緯

南海トラフ地震は、約100～150年周期で発生し、宝永地震（1707年、M8.6）、安政東海地震・安政南海地震（1854年、両方M8.4）、昭和東南海地震（1944年、M7.9）・昭和南海地震（1946年、M8.0）が代表的である。これらを時系列で整理する。

- ・**宝永地震（1707年10月28日）**：東海・東南海・南海が連動し、東海道から四国沖まで広範な震源域。静岡県沼津～三河湾で家屋倒壊多数、死者約2万人。津波は伊豆半島～九州太平洋岸を襲い、高知県種崎23m、土佐清水24～26m。愛知県渥美半島で家屋流失、田畠30万石被害。49日後に富士山宝永大噴火を誘発。
- ・**安政東海地震（1854年12月23日）**：駿河湾～紀伊半島沖（M8.4）。静岡～三重で家屋全壊、死者2000～3000人。津波高10m超の熊野灘、伊豆下田6～7m、愛知県渥美半島6～10m。
- ・**安政南海地震（1854年12月24日）**：紀伊水道～四国沖（M8.4）。高知・徳島で大被害、死者3000人。高知津波16.1m（久礼）、室戸15m。愛知県でも被害加重。
- ・**昭和東南海地震（1944年12月7日）**：紀伊半島東部～遠州灘（M7.9）。三重・愛知・静岡で死者1223人、津波6～9m。愛知県西尾・蒲郡で震度7相当。
- ・**昭和南海地震（1946年12月21日）**：紀伊半島～四国沖（M8.0）。高知・徳島で死者1443人、津波4～6m。

地質学的証拠として、津波堆積物が蟹ヶ池（高知）などで確認され、宝永津波より巨大なものが200年前に存在。浜名湖・志摩半島低地でも複数イベント記録あり。これら堆積物から、300～600年周期の巨大津波繰り返しが示唆され、愛知県渥美半島では江戸時代津波起源の砂層確認（粒度・円磨度分析）。

(298 words)

5. 潜在的影響分析

南海トラフ巨大地震の政府被害想定（2025年3月公表）では、愛知県の最大震度は大半が震度6強～7で、豊田市・豊明市・弥富市・幸田町では震度7に上方修正された。最大死者数は1万9千人（前回想定から4千人減）、負傷者14万6千人、建物全壊・焼失40万1千棟（全国最多、前回比増加）と推計され、死者の74%・負傷者の97%が建物倒壊による。

被害項目	最大値
死者数	1万9千人
負傷者数	14万6千人
建物全壊・焼失	40万1千棟
津波死者	2,900人（前回比半減）
火災死者	2千人
液状化全壊	1万7千棟
避難者（1週間後）	265万人以上
断水（1日後）	300万軒（9割）
停電（被災直後）	300万軒（9割）

津波では、田原市（最大高22m、最短到達11分）、豊橋市（19m、8分）、南知多町（10m、34分）が最大被害。新浸水域として北名古屋市・清須市まで遡上し、名古屋港・中部国際空港周辺、海部地域、田原市で浸水拡大。

南海トラフ以外の地震は、伊勢湾断層帯（M7.0～7.5、ほぼ0%）、養老一桑名一四日市断層帯（M8、Aランク、ほぼ0%～0.8%）、屏風山・恵那山断層帯（M6.8～7.7、A～Sランク、ほぼ0%～10%）等が想定されるが、30年確率は低くZ～Aランク中心。愛知県活断層調査では、加木屋一成岩断層（M7.3、活動度B）、大高一高浜断層（M7.0、B）が確認され、直下地震リスクを指摘。防災マップでは、震度分布や液状化危険度が示され、過去最大モデルで最大被害を想定。

全体として、南海トラフ地震が最大被害要因で、死傷者の大半が建物倒壊・火災由来。津波は沿岸部中心に浸水拡大し、断水・停電が1週間以上続く可能性。活断層は低確率も、局所被害想定。

6. 結論

本レポートは、愛知県における2026年2月12日から2029年2月11日までの3年以内に大地震（震度6弱以上またはM7以上）と大津波（高さ3m以上）が発生する確率とタイミングを、政府発表（地震調査研究推進本部・地震調査委員会）と専門家予測を優先し、南海トラフ地震を含む全ての地震を対象に定量的に評価した。最新データに基づく科学的根拠、歴史的・地質学的経緯、潜在的影響を統合し、愛知県のリスクを明らかにした結果、南海トラフ地震の切迫性が最大の脅威であることが確認された。短期確率は低いが、長期評価の高い発生可能性が常態化しており、備えの重要性を強調する。

確率・影響の要約表

項目	南海トラフ地震（主な脅威）	その他の地震（活断層等）
3年以内発生確率	公表値なし（年平均2-3%推定、ポアソン過程）	ほぼ0%～10%（伊勢湾断層帯等、低確率）
30年以内発生確率	60-90%程度以上（すべり量依存BPTモデル）/20-50%（BPTモデル）	Z-Aランク（低い～中程度、M7-8規模）
根拠（科学的・歴史的）	プレート境界ひずみ蓄積継続、深部低周波微動の繰り返し活動（変化なし）。宝永（1707年）・安政（1854年）・昭和（1944-46年）地震の100-150年周期、地質学的津波堆積物確認。	愛知県内活断層（加木屋-成岩断層M7.3等）の活動度B評価。歴史的影響小。
愛知県潜在的影響	最大死者1.9万人、負傷14.6万人、全壊40,1万棟。津波高22m（田原市、到達11分）、浸水拡大（北名古屋市・清須市まで）。断水・停電300万軒（9割）。	局所的震度6-7、建物被害数千棟。津波リスク低いが、直下型で即時被害。

全体として、南海トラフ地震の発生確率は時間経過により徐々に上昇し、2026-2029年期に特段の前兆変化はないものの、80年経過の地震後経過率が高い状態が続く。科学的観測（GNSS・ひずみ計）では固着状況に変化なく、臨時情報運用も平常時。歴史的には愛知県沿岸部（渥美半島・蒲郡等）で繰り返し被害を受け、地質証拠が巨大津波の長期周期を示す。一方、活断層地震は確率低いが、局所リスクを無視できない。

愛知県民向け備え提言：（1）家具固定と耐震診断を即時実施、建物倒壊死者の74%を防ぐ。（2）沿岸部住民は津波避難経路確認とハザードマップ活用、到達11分以内の迅速避難を訓練。（3）3日分の水・食料備蓄と家族避難計画策定、断水・停電長期化に備え。（4）南海トラフ臨時情報発令時は情報収集を優先し、自治体アプリ登録を推奨。これらにより被害を半減可能。早期行動が命を守る鍵である。（348 words）

参考文献

「南海トラフの地震活動の長期評価」の改訂について - 徳島県

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/anshin/bousai/taisaku/sonota/7307433/>

「南海トラフの地震活動の長期評価」を一部改訂しました

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/subduction_fault/summary_nankai/

今までに公表した活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧（令和6年1月15日）

<https://jishin.go.jp/main/choukiyoka/ichiran.pdf>

南海トラフ地震に関連する情報

<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/ntrq/index.html>

南海トラフ地震関連解説情報について - 最近の南海トラフ周辺の地殻活動 -

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2512/05a/nt20251205.html>

津波情報等に活用する観測地点の追加について～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」沖合...

https://www.jma.go.jp/jma/press/2411/14a/20241114_N-net.html

地震本部 **長期評価による地震発生確率値の更新について - 地震本部**
https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/chousa_26jan_kakuritsu_index/

④ 最近の南海トラフ周辺の地殻活動 - 気象庁
<https://www.jma.go.jp/jma/press/2602/06a/nt20260206.html>

④ 南海トラフ地震に関する情報 - 気象庁
<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nteq/index.html>

南海トラフ地震の脅威—歴史を振り返り、今できること
<https://jesea.co.jp/blog/124/>

南海トラフで過去に発生した大規模地震について
https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio_wg/pdf/h301101shiryou02.pdf

100～150年おきに繰り返してきた南海トラフ巨大地震
<https://www.nippon.com/ja/japan-data/h02086/>

安政東海地震
<https://www.bo-sai.co.jp/anseitoukai.htm>

報告書（1944東南海地震 1945三河地震）
https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1944_tounankai_jishin/index.html

地震本部 **愛知県の地震活動の特徴**
https://www.jishin.go.jp/regional_seismicity/rs_chubu/p23_aichi/

地震本部 **南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）について**
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou_pdf/nankai_3.pdf

津波堆積物から見た南海トラフ沿いの巨大地震履歴
https://cais.gsi.go.jp/YOCHIREN/report/kaihou87/12_02.pdf

南海トラフの巨大地震モデル検討会 中間とりまとめ 参考資料集
https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/model/pdf/chukan_sankou.pdf

② 海底の地震・津波堆積物
https://www.jstage.jst.go.jp/article/synth/11/1/11_12/_article/-char/ja/

② 愛知県渥美半島の沿岸低地で見出された江戸時代の津波起源と推定されたイベント堆積物
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jaqua/52/2/52_33/_pdf/-char/ja

【詳しく】南海トラフ巨大地震「新被害想定」公表 私のまちは
<https://news.web.nhk/newsweb/na/na-k10014762791000>

【津波浸水マップ】津波浸水エリアが拡大 あなたの街は？ 南海 ...
<https://www.chunichi.co.jp/article/1045978>

【津波浸水マップ】愛知・北名古屋市や清須市まで遡上 南海トラフ ...
<https://www.chunichi.co.jp/article/1046017>

【想定震度マップ】あなたの自宅を襲うかもしれない震度は？ 豊田市や豊明市で震度7に、南海トラ...
<https://www.chunichi.co.jp/article/1046009>

地震本部 今までに公表した活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧（令和6年1月15日）
<https://jishin.go.jp/main/choukihyoka/ichiran.pdf>

地震本部 主要活断層帯の長期評価 | 地震本部
https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/major_active_fault/

 **直下型地震と活断層 - 愛知県**
<https://www.pref.aichi.jp/bousai/katudannsou2.html>

防災マップ（スマホ版） - 愛知県防災学習システム
https://www.quake-learning.pref.aichi.jp/?page_id=177